

鹿 児 島 の 地 場 産 業

ま え が き

鹿児島県には、本場大島紬及び川辺仏壇の伝統的工芸品産業をはじめ、焼酎、薩摩焼、製茶、鰹節など全国的にも有名な地場産業が数多く存在し、これらの代表的地場産業に、その他の有名、無名のものも含めた地場産業全体の県内製造業に占める地位は極めて高く、鹿児島県経済を支える有力な産業となっている。しかし、個別的には地場産業本来の性格とでもいうべき零細性と低生産性に悩まされ、鹿児島県の場合には一層それが濃厚な様相を見せている。さらに、これまた一般的に地場産業そのものについていえることであるが、多くの地場産業はその産地形成の時期が古いことを一つの特徴としており、この産地形成の時期の古さは、それによる長所も一面において存在しているものの、どちらかといえば現代の消費生活のなかでは主流から外れた商品群が少なくないことにも結びついている。従って、こうした地場産業においては、ほぼ共通して、例えば後継者難、近代的労使関係の未確立、従業者の高齢化、売上不振による経営の困難化、あるいは原材料問題や販路問題等等、生産、労働、経営、流通の諸側面にわたって、数々の深刻な問題を抱えているのである。

そこで、こうした鹿児島の地場産業の現状をトータルに分析し、その抱える諸問題を解明しつつ、振興の方向と課題を明らかにすることを目的として、本学の商経科に属する児嶋正男、橋口幸夫、横山政敏、高向嘉昭の4名が昭和61年度より3年計画でこれらの課題と取り組むことにした。

児嶋正男は翌62年3月に定年退職し、この共同研究から退いたが、代わって新たに就任してきた竹田昌次、金谷義弘の2名がメンバーの一員として加わり、それぞれの専門分野で調査研究が進められた。

本稿は、こうした3年間の活動を基にして、一応の研究成果をまとめたものであるが、もとより、各人には各人の異なった研究視座や研究方法があり、それはそれでまた一面の意味が認められるため、ここではあえて統一的枠組みの中に嵌め込むようなことはせず、提出された論文をそのまま掲載することにした。従って、各章間でいくらか重複するところがあったり、また、繋がり悪い点が見られるのは致し方ないことといえる。それらについては、別の機会に是正したいと思う。

なお、統一テーマとその中で各人の分担した項目は次のとおりである。

「鹿児島の地場産業」〔代表〕高向嘉昭

- I 存立基盤……橋口幸夫
- II 生産と労働……横山政敏
- III 企業経営上の諸問題……竹田昌次
- IV 流通の現状とその課題……高向嘉昭
- V 地場産業展開の施策と展望……金谷義弘

(注：横山政敏は、平成元年4月に立命館大学に転出した。)